

2019 国際教養科 NEWS 7 月

3年国際教養科 三浦あいかさん 英検1級合格！



本年度、第1回の実用英語技能検定において、3年国際教養科の三浦あいかさんは、見事に1級を取得しました。

英検1級は合格率が8%台という日本の様々な検定の中でもとりわけ難度が高い検定です。英語プロの登竜門として、真の英語の実力を評価される資格でもあります。

三浦さんは、昨年度の獨協大学主催英語プレゼンテーションコンテストにおいても、10人のファイナリストに選ばれました。相次ぐ快挙に多くの仲間が刺激を受けています。以下は三浦さんからの報告です。

わたしは高校一年生の時から一次試験を4回、二次試験を2回受験して英検1級に合格することができました。1次試験は専門的な用語が多く、政治や経済のことに関する長文に苦戦しました。2次問題の面接も時事問題のトピックばかりなので、英語でニュースを読んだり、ALTの先生方に

放課後にたくさん練習していただきました。国際教養の授業がプレゼンテーションを作る機会がたくさんあり、それも2次試験にとっても役立ちました。

英語の先生方やALTの先生方にこんなにもサポートしてもらえるのは国際教養科の特権でもあると思います。

たくさんの人が支えてくれたおかげで英検1級に合格できたことをとても嬉しく思います！

中国人留学生 馮艶群さん 帰国

平成30年9月から、本校1年国際教養科7組に在籍し、約10ヶ月苦楽をともにした中国人留学生の馮艶群(フーエンゲン)さんが7月16日帰郷の途に着きました。

7月12日にクラスでお別れのSHRを行い、馮さんはクラス全員の前で大変上達した日本語でお別れの挨拶をしました。日本での生活を十分楽しむことができ、貴重な思い出がたくさんできたようで、別れを惜しむ気持ちに包まれていました。お元気で！





最後は記念にクラス全員で。

高大連携 異文化理解授業 (7/26)

今年度第1回目の高大連携授業が、国際教養科 1 年6組で行われました。今年も信州大学教育学部の小池浩子先生と徳井厚子先生、そして現代教育コースの学生3名に来て頂いて、「異文化理解」の授業を実施して頂きました。今年も学生達が立案した授業を実際に受講しました。内容は「バルンバ人ゲーム」と呼ばれるもので、6人～7人ずつの5グループに分かれ、その中から1名バルンバ人として選出されます。5人のバルンバ人は別室で、学生からバルンバ人になるための教えを受けます。それは「バルンバ人が長袖を着ていれば、自分のグループ内の長袖の生徒からの質問に答える一方、半袖の生徒からの質問には無視を続けるというものでした。同様に、バルンバ人が半袖なら、長袖の子を無視続け、半袖の子のみからの質問に答えるという決まりでした。バルンバ人役の生徒は、無視を続けることに苦悩の色を滲ませながら奮闘しました。グループのなかで勤の強い生徒は何らかの反応の違いを嗅ぎ取ってはいましたが、種明かしするまでは誰もわかりません。バルンバ人が同じ仲間と感じる人達と、その思い込みをまったく理解できない周囲という構造が、今世界各地で起こっている国家間、民族間、宗教観対立を描きだしているようで、生徒達は学ぶことが多く、有意義な授業となりました。

【生徒の感想より】

- ・偏見を持つことの怖さをしみじみ体験した。
- ・コミュニケーションが成立しないことの恐怖は、今世界で普通に起きているとも思った。
- ・すごく楽しいゲームだった。世界の問題を学ぶことができました。
- ・今日学んだことは、人と人との関わりの中で、意識的に活かしていきたいことばかりでした。



小池先生からの説明を受けます



バルンバ人に選ばれた5名は詳細な指示を受けま



す



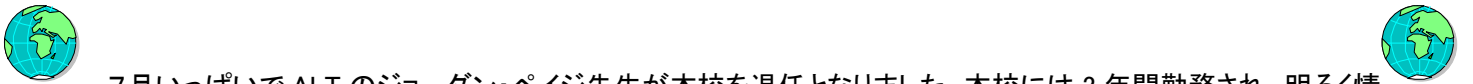
奮闘するバルンバ人役



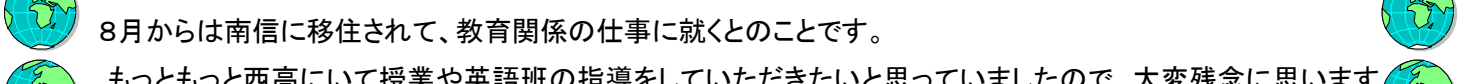
バルンバ人としての苦勞を語る生徒



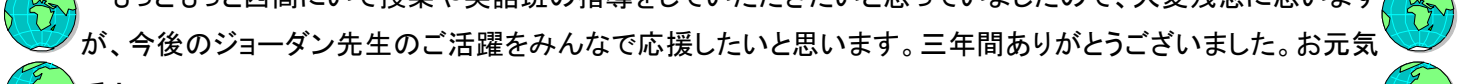
ジョーダン先生お別れ (7/26)



7月いっぱいまで ALT のジョーダン・ページ先生が本校を退任となりました。本校には 3 年間勤務され、明るく情熱的でしかも優しいお人柄から、職員、生徒たちに大変慕われていました。授業も分かりやすく、とても丁寧に指導していただきました。



8月からは南信に移住されて、教育関係の仕事に就くとのことでした。



もっともっと西高において授業や英語班の指導をしていただきたいと思っていましたので、大変残念に思いますが、今後のジョーダン先生のご活躍をみんなで応援したいと思います。三年間ありがとうございました。お元気で！

